

「秋の東北鉄道旅行 (21)」

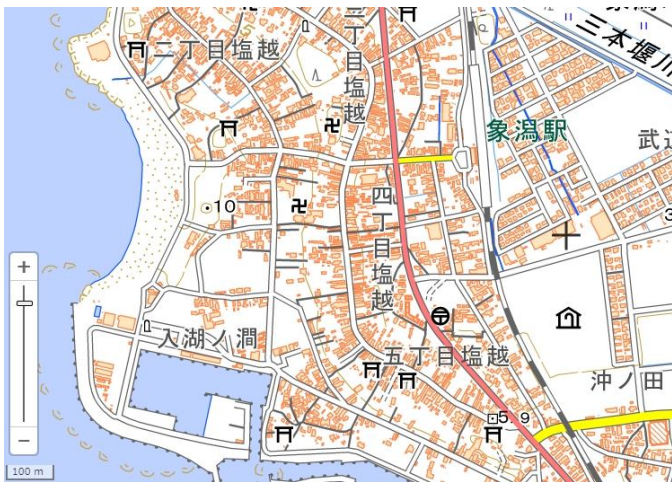
お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

象潟駅(きさかたえき)で途中下車した理由は、「海に沈む太陽」を見る為である。羽越本線は日本海に沿って走るので、車窓からも見えるのだが、一番海に近い区間は酒田以南で、日没に間に合わない。

途中下車したあとは、後続の特急に乗らないと、この日のうちに東京に戻ることはできなくなる。特急が停まる大きな街は、鉄道が内陸に寄っていて駅と海が離れていて、しかも人工的な護岸になっていることが多い。できれば砂浜から見たい。



象潟は特急停車駅の中では最も海に近く、しかも地形図で見ると、海岸は砂浜になっている。駅から海岸まで一本道で 1km もないので、30 分ほどで往復できそう。私は象潟での途中下車を決めた。



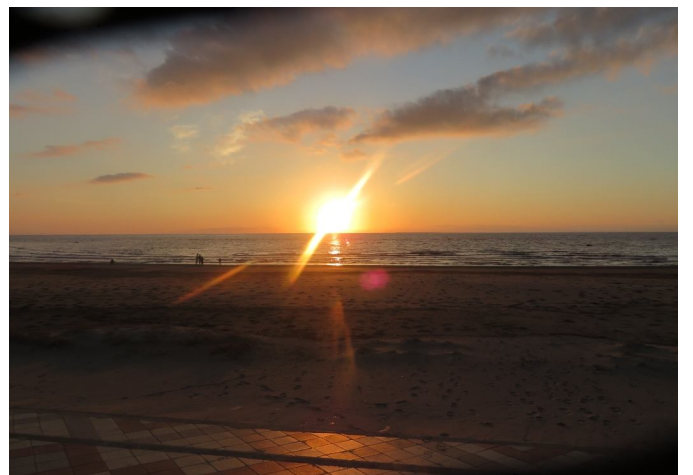
一応駅前の案内板で道を確認した。どうやら「迷うほうが難しい」ほど、簡単に海岸に行けそう。



駅舎にはすでに夕陽が射していた。後続の特急の時刻も再確認して、私は海岸への道を急いだ。



海岸に近づくにつれて、「夕陽」の気配がしてきた。驚いたことに、私と同じように象潟で途中下車して、海岸に向かう人が 2, 3 人いた。その人たちと競争して歩いているような形になってしまった。



海岸には、駅から 10 分ほどで着いた。太陽はまさに「水平線に沈まん」としているところだった。天文シミュレーションアプリで緯度経度・時刻を入力すれば、あらかじめ計算もできるが、私はあえてそれをしなかった。旅先では「海に沈む夕陽を見られればいいな」ぐらいの気持ちで、ちょうど良いのだと思う。